

大津町議会 総務常任委員会行政調査

氏名 時松 智弘

視察研修名：大津町議会総務常任委員会行政調査

視 察 先：神奈川県秦野市、埼玉県北本市、茨城県取手市、千葉県鴨川市

期 日：令和6年8月5日（月）～7日（水）

研修テーマ：① 地下水保全について（P F A S ・ P F O S 検出後の現状）

② 子どもの権利条例について

③ グリーンスローモビリティ実証運行について

④ ハラスメント防止条例の制定について

研修報告 意見・感想

（全般）

総務常任委員会は8月5日から7日の3日間にかけて神奈川県秦野市、埼玉県北本市、茨城県取手市、千葉県鴨川市を視察した。視察内容については研修テーマに示す通り。東京都をぐるりと取り囲むように移動した総距離は約500キロにのびた。それぞれ都心部から外れた郊外の地を選定したことは熊本市のベッドタウン、近隣菊陽町の大規模開発に伴う本町の取り巻く環境と相似する点が多々あった。以下はそれぞれの自治体において研修テーマに沿い簡潔に所見を述べる。

（概要）

1 秦野市

秦野市は神奈川県内の唯一の盆地でありその地下構造は地下水盆を形成しており約7億5千万トンを含養している。その豊富な地下水脈の恩恵を受け、市の中心部においても清冽な飲料水を得ることができる。

平成元年に「弘法の名水」と呼ばれる水源からテトラクロロエチレンが検出されたことを皮切りに生活井戸水の保全と汚染の解消が必須となりテトラクロロエチレンが気化しやすい特性があることからブローにて除去する政策を採るとともに、平成12年にそれまでの国水室汚濁防止法から一歩踏み込んだ「秦野市地下水保全条例」の制定に至った。

現在は、全国に名だたる天然水の地として復活し、条例が功を奏しているが有機フッ素化合物の問題が神奈川県で問題となっており、秦野市も1地点で観測されたが、上位法の整理が追い付いておらず、県の動向に注視しつつ継続して監視を行うことの事だった。

2 北本市

北本市は埼玉県中東部に位置しかつては中山道沿い鴻巣宿があった。こうした宿場町は名残として地方交通の拠点となることが多く、現在の北本駅は湘南新宿ラインが通じ新宿駅まで45分の好立地であり大規模レジデンスの開発などがあったが発展の速度は遅く、企業誘致などが課題である。

北本市の子どもの権利条例を語る際、北本市で発生したいじめによる自殺事案について語らないわけにはいかない。詳しくは国家賠償法に係る東京高裁判決に詳しいが、子どもの権利を著しく阻害する事案があったが、行政や教育現場が当時無力であったことに鑑み条例の制定機運が高まったものと思料する。

再先決としていじめ事案やその対策に焦点が当たっているが、本来国連が提唱する子どもの権利条約を礎に広聴広報を行いながら「北本子ども会議」の開催の施策はまだ実行されていない。地元北本高校と調整をしながら方向性を探っているとの事だが、実行に向けて頑張ってもらいたい。

先に触れたが、これだけ利便性のある地ながら出生率は低下の一途で「消滅可能性自治体」になっている北本市が子育てのしやすい街となるには条例施行から実効性を高めていくなど課題があると感じた。

3 取手市

取手市は茨城県南部に位置しかつては水戸街道の宿場町。前述北本市同様交通の要衝として上野東京ラインを利用し都内へ通じるベッドタウンである。取手駅前にはビジネスホテルや飲食店がある程度並び賑やかな一方、関東鉄道沿線はつくばエクスプレスが通じる守谷駅までの間は公共交通の脆弱な地域が点在している。特に、関東鉄道新取手駅周辺は高齢化した住宅街が広がっている。

そのような中、取手市は時速20キロ以下で運行するグリーンスローモビリティの実証実験をかつて実施したという事でその概要と今後グリーンスローモビリティを導入するか否かについて説明を受けたが、内容は本町に導入するか否かについて説明を受けたが、内容は本町に導入するのは非常に厳しいと感じられた。

運行実証実験は無料で行ったもので1日の利用者は約25人から約50人とどまっており、利用者アンケートでは通院や買い物に比率が多く、通学や市外への利用はあまりおこなう事が伺える。いわゆる福祉の側面が多いが、実証実験後の意見として料金が200円を超えたら利用しないと回答がある。

ひと月の運行収支は100円の運賃として約7万円の収入を得るために約100万円の運行管理費が必要となり営業係数は100円の収入を得るのに約1,428円となる。行政主導でかつての日本国有鉄道すら大きく下回る事業を行うことは実質不可能であると考えられ、実際に取手市もコミュニティバス運行に力を注いでおり、比較的聡明な判断と言える。

4 鴨川市

鴨川市は千葉県南房総の観光都市。海岸は良質な波を求めてサーフィンに興じる若者や豊かな海産物を求めて観光客が多数訪れている。シャチのショーで知られる鴨川シーワールドは年間95万人が来場し、周辺温泉施設とあいまって有数のリゾートにもなっている。本町の観光資産としてはあまり参考になる所はないが、かつて自己研修で静岡県駿東郡小山町のフィルムコミッションの取り組みが本市にもあり、参考になった。

議会ハラスメント防止条例の制定経緯について議会事務局および議長、前議長から説明があったが、近隣の村議会では女性職員に対する暴力事案や埼玉県川越市における議員のハラスメントの状況に鑑み制定を速めたとの見解があった。

議員からの過大な要求に対しその抑止をするという目的理念は理解できたが、そもそも議員というのは高い倫理観を保持していなければならないものであり、住民の付託を受ける身であるならば不正に関与せず、犯罪を為さず、というところであり一度不祥事があれば議会として懲罰を課し辞職に該当するような犯罪、不正があればこれを勧告すればよいものであるが、辞職勧告が否決されたり、被勧告議員が拒否をされたりすれば議会の威厳は著しく損なわれる為、こうした理念条例にも一定の効果はあるやも知れない。

懸念は群馬県草津町にあった町長から性被害を受けたとする町議の捏造事案のようにいわゆる弱者を騙った一方的な主張によりキリトリや誹謗中傷への対応はどうするのか若干課題を残していると感じる。

(結言)

以上、研修について忌憚のない意見を申し述べたが、各自治体の担当の職員、議会事務局、議員各位に多大なる支援を頂き感謝を申し述べるとともに、今回の視察行程を安全に運行されたドライバー、そして随行間様々な御支援を頂いた住民生活部長、町議会事務局の皆様に深甚なる謝意を表し結言とする。